

★非同盟諸国アゼルバイジャン首脳会議の意味＝田中 靖宏

第18回非同盟首脳会議が10月25、26日の両日、アゼルバイジャンの首都バクーで開かれることが正式に決まった。アリエフ大統領が政令で組織委員会を設置した（12日）。

カスピ海に面した同国は、面積が日本の3分の1、人口は1000万人、バクー油田で有名だ。隣のアルメニアとの間でナゴルノ・カラバフ問題を抱え、今回の非同盟会議開催も、この問題で国際的に優位に立ちたいとの思惑が指摘される。

だが大きな視野でみると、経済的にも政治的にも大国からの自立をめざす中央アジア諸国の躍動を象徴する出来事だ。ユーラシア協会の理事長でジャーナリストの堀江則雄さんがそう強調している（機関紙「日本とユーラシア」2月15日号）。

ソ連崩壊後、地域は15の共和国に分かれて独立した。このうちバルト3国は北大西洋条約機構（NATO）に加盟、ウクライナも加盟を目指している。一方中央アジアではウズベキスタンが独立早々の1992年、非同盟に加盟した。トルクメニスタンが1994年、ベラルーシが1995年と続いた。トルクメニスタンは永世中立を宣言して国連でも承認された。それに加えてアルメニア、カザフスタン、キルギス、タジキスタンの4か国がオブザーバー加盟国になっている。

アゼルバイジャンは、同じようにロシアとの問題を抱えるジョージア、ウクライナ、モルドバとともに反ロシア・グループ（GUAM）を形成し、NATOとの協力関係を強めていた。そのアゼルバイジャンが2011年に非同盟に正式加盟した。これを機にグルジア、モルドバ両国にも変化がおこり、NATO加盟をめざすのはウクライナだけとなっているようだ。

中央アジア非核地帯条約は5カ国が参加して2006年調印、2009年に発効した。付属議定書で中ロ、米をはじめ核保有国に条約順守を約束させている。条約はかつてソ連の核実験場があったセミパラチンスクの現在の地名をとってセメイ条約とよばれる。リード役を果たしているのが、カザフスタンだ。

同国では500回以上の核実験（内50回以上の地上核実験）が行われた。被爆者は150万人（人口1800万）ともいわれる。日本と同様、反核は国是でもある。日本政府とちがって一昨年採択された核兵器禁止条約の採択にあたって積極的

な役割を果たした。反核シンポやフォーラムを連続して開催し、禁止条約の発効にむけて官民挙げた取り組みをしている。

モンゴルが非核宣言を行ったのは 1992 年、97 年には国連で非核兵器国の地位が国際的に承認されている。ユーラシアでのこのような流れでみれば、朝鮮半島に非核化の波が押し寄せるのはむしろ必然、と堀江さんは強調している。

非核、非同盟への流れは、中国の「一带一路」戦略を取り込んだ大規模な経済発展に支えられている。バクーでの非同盟首脳会議の開催の背後には、ワクワクするようなユーラシアの変化がみえる。(平和新聞 2 月 25 日号)